

# ファイナル風

(現場)からの風

宮田守男

3月・4月は、新しいスタートをする時期でもあるが、長く勤めた職場を旅立つ時でもある。だが、定年を迎えても年金制度の改善

により、60歳から年金を支給されない者も多く、年金支給年齢まで、新しい生活設計を求められる厳しい老後を迎える時代になっている。

全額年金支給されても、生活を賄えないとの切実な声も多い。この60歳代を迎え、老後生活が気になりだした、そんな折に、弘兼憲史(ひろかねけんし)さんの「弘兼流・60歳からの手ぐら人生」の著書に出合う。「常識という棚にしまったすべてのものを一度おろして、ひとつひとつ吟味してみませんか。そうすれば、きっとこれ

からの人生に必要なものと必要でないものがみえてくるはずだ」の書き出しが妙に心を突き刺さる。

弘兼憲史さんは、著名な、本の漫画家。作品は「風薫る」「人間交差点」「黄昏流星群」、

代表作の「課長・島耕作」は現代社会に生きるさまざまな大人たちの生活の中で、もがき苦しむ団塊世代への熱烈な応援歌として、描き出されるストーリーには、何時も夢中にさせられた。また、美し

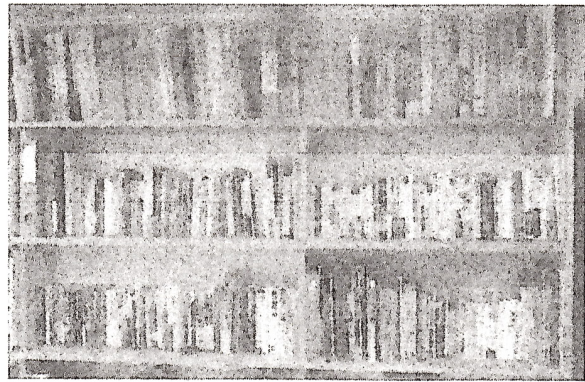
く、色っぽく、上品に描き出される女性の登場人物に好感を持った人も多かったはずだ。著書は、60歳を超えた時に、残りの貴重な人生を、どうしたら悔いなく生きられるか、がテーマだ。そして納

第二の人生のスタート、やりたかった趣味の世界、挑戦したい新たな目標、をまだまだ捨て切れない自分をみつめてしまふ。惰性で行っていた習慣

得いく死に様を迎える相応の準備や「身軽に生きる」生活へのアドバイスだ。60歳以降への、人生の縮小期の考え方は、著者の、それまでの人生が充実していたらどうと思わせ、うらやましくなる。

## 60歳代からの悔いのない生き方について考えてみませんか

本棚に並ぶ数々の本、本当に必要と思う本はわずかだが、処分できる日は想像もできない……



だわり)、前向きにあきらめる考え方。無目的なテレビ習慣への決別。生活をサイブズダウン。などへの考えには共感する。今を見つめ、新しきを知る。高齢期を迎える時こそ、心構えが大切と知らされた著書に感謝だ。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上) しかし「見栄」や「こ